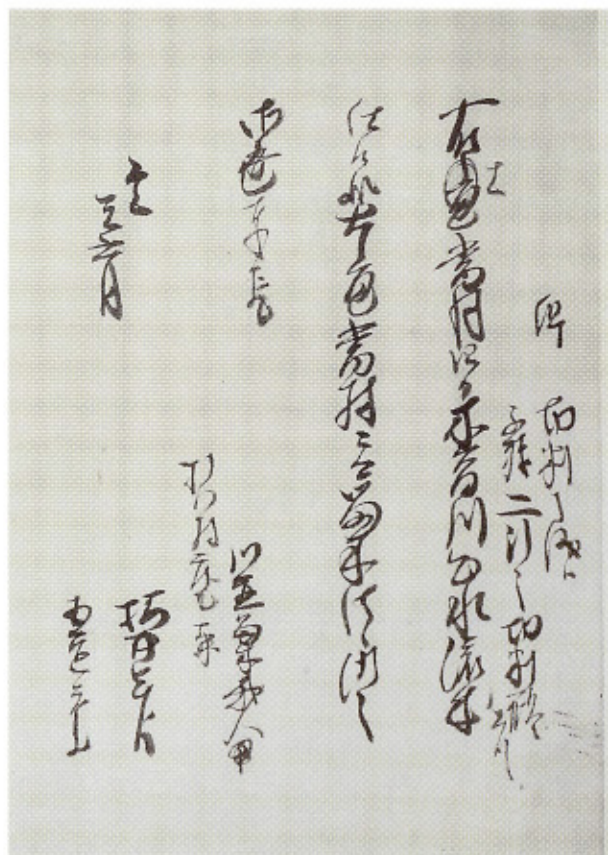
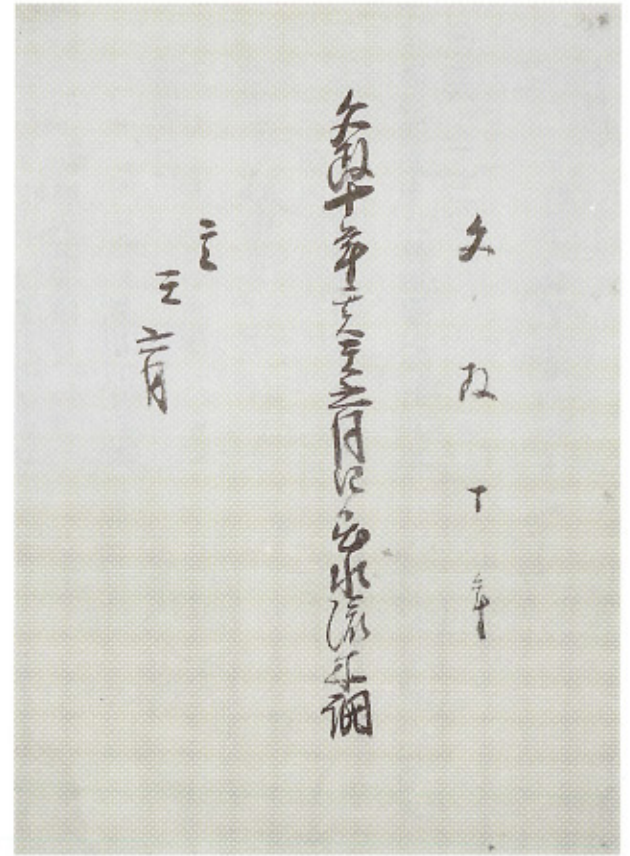


- 一松五寸丸太長八尺
- 一同四寸丸太長式間
- 一杉四寸角 同式間
- 同五寸角 同式間
- 一同三寸角 同式間
- 一松七寸角 同式間
- 一同四寸角 式間
- 同六寸角 式間
- 一同六寸丸太 式間
- 一同七寸丸太 式間

乍恐御達申上候御事

- 壹本
- 壹本
- 壹本
- 壹本
- 壹本
- 壹本
- 壹本
- 三本
- 式本
- 壹本



- 同五寸角 式間 式本
- 一同六寸角 式間 六本拾五本
- 一同八寸角 九尺 壹本
- 一同七寸角 九尺 壹本
- 一同六寸角 壹間 壹本
- 一同末口六寸丸太式間 壹本
- 同六寸角 式間 六本
- 一同五寸角 式間 五八本
- 一同八寸角 式間 三本
- 一松六寸角 九尺 壹本
- 一同六寸角 壹間 式本
- 一同六寸丸太 壹本式間 五本
- 一同五寸丸太 式間 三本

十同四寸丸太 九尺 壹本

五拾壹本 木ノ巻 留木分

、一同六寸角 貳間 貳本

、一同六寸角 長壹丈 壹本

此分 大伊木 留木

三本

、一同六寸角 二間 貳本

一同六寸角 長壹丈 貳本

此分四本 兩川留木

惣五拾八本

但し 切判之儀ハ

不残二引之切判形ニ御座候

右之通は当月四日、木曾川出水流木仕候処、右之通当村にて留木仕候、仍之御達奉申上候

鶴沼村庄屋兼川並留木裁人(新)

亥閏六月 桜井岡右衛門

国定市兵衛

矢野藤九郎様

御陣屋

○乍恐御達奉申上候御事 (木曾川出水流木当村にて留木につき)

(二六—一七六)

乍恐御達奉申上候御事

一松六寸角 長貳間

四本

一同七寸角 長壹丈 貳本

一同貳間丸太 三本

一栗六寸角 長壹丈 壹本

一檢六寸方五長貳間 壹本

一松七寸角 長七尺 壹本

一栗尺角 壹本

一松六寸角 長貳間 四本

一同六寸角 長壹丈 貳本

一檢矢来 貳本

一松五寸丸太 六本

廿七枚

右は当月廿三日、木曾川出水流木仕候処、右之通当村にて留木仕候、仍之御達奉申上候、以上

鶴沼村庄屋惣代

亥六月 桜井岡右衛門

同村

留木裁許人川庄屋兼

坂井伝兵衛

矢野藤九郎様

御陣屋

○乍恐御達奉申上候御事 (娘いしへ拾一枚持参御届につき)

(六一三四)

乍恐御達奉申上候御事

一拾 壹枚



右ハ、当村むめ娘いし牢内へ綿入并襦伴取寄方相願候処、右綿入ハ持合無之、襦伴ハ着仕居候付、右袷ヲ去ル四日持参仕、御勘定所へ御届ケ申候上、町方御役所へ持出シ翌五日帰村仕候、仍之御達奉申上候、以上

鶴沼村庄屋

未九月八日

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

○乍恐御達奉申上候御事（いし家出、岐阜方役人召捕につき）  
（二六一四三）

乍恐御達奉申上候御事

鶴沼村

むめ娘

いし年廿

右ハ昨十八日昼後、いし義家出仕候所、近所え参り居候事哉と相持候得共、暮方ニ相成り候而も帰り不申ニ付、所々相尋候得共、一切行衛相知レ不申候、然ル処今朝ニ至り追々風聞承候所、昨十八日暮方ニ岐阜方役人衆様御兩人、下役体之者両三人御召連、当村境途中おゐて右いし御召捕、御連レ被遊候趣承り申候、仍之御達シ奉申上候、以上

水野

御陣屋

Handwritten Japanese document with vertical columns of text in cursive style. The text is written on a light-colored paper with a vertical crease. The right side contains the main body of the letter, and the left side contains a signature and date. The characters are fluid and characteristic of Edo-period calligraphy.



○御用状繼立遅滞の件及びおいし召捕の件につき控(二六一四四)

乍恐御尋ニ付御達奉申上候御事

一御用状<sup>つぎたて</sup>迄通

但 神野順蔵様

丹羽十郎左衛門様 え 河原一太郎様より

右御用状<sup>つぎたて</sup>繼立方及遅滞候ニ付、今般請取持届ケ時刻被遊御尋、承知奉畏候、右御用状之儀、当月四日四ツ半時頃、吉田村より差越直ニ指立、同日申上刻小牧宿より持届ケさせ候儀ニ御座候、仍之御尋ニ付奉申上候、以上

鶴沼村庄屋

未閏七月

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

岐阜

人別定廻り

青木六郎様

隠密廻り方

太田茂太夫様

外ニ

宅平壱人附添

右八当村お梅娘おいし義、当七月十日、岐阜表ニおゐて本町飛脚屋出雲屋利兵衛方之召使と偽り、同所菱屋方へ参り、主人之使と

雲包利三亦方之使と偽り  
書包五方之使と偽り  
紙書方之使と偽り  
近云、少月在入付書包  
七、おらぬ湯水おらぬ水  
大田、おらぬ水おらぬ水  
大田、おらぬ水おらぬ水

波集  
人別定廻り  
青木六郎様  
左田茂太夫様  
宅平壱人附添  
右八当村お梅娘おいし義  
七月十日  
本町飛脚屋



申立、別紙書付之品々かり出し、途中より逃去り候付、右人別之者御召捕ニ至、七月十八日出張被成、然ル所右女之義、犬山表ニ懸り合之義有之候付、太田方へ御打合として女当村へ御預ケ被成、太田へ御出被成、同夜八ツ時頃御帰りニ相成、太田方御熟談之上、途中御召捕之趣にて御召連被成候、尤犬山表ニ抱り候義等有之候所、直様同所へ談遣し候所、此節ニ而ハ聊懸り合之義無之ニ付、其段町方より下役を以御解キ相成申候、仍而太田へ御達シ之趣ハ、別紙ニ有之候、以上

覚

一川和嶋 三反

一緋縮緬式丈五尺

一紫縮緬式丈五尺

○乍恐御達奉申上候御事（卯作ほか二名行方不明につき）（二六一三七）

乍恐御達奉申上候御事

鷓沼村

宗九郎後家倅せがれ

卯作

同村卯藏

女房 幸

同人

女子 志人  
右之者共、去月十四日より当月三日迄都合廿日之間相尋候様被仰付候付、所々手配仕無懈怠けたいなく為探候得とも一切行方相知レ不申、仍之御達奉申上候、以上

右村庄屋

桜井岡右衛門<sup>㊦</sup>

未九月四日

水野篤助様

御陣屋

○乍恐御達奉申上候御事（卯作ほか二名行方不明につき）（二六一四〇）

乍恐御達奉申上候御事

鷓沼村

宗九郎後家倅

卯作

同村卯藏

女房 幸

同人

女子 志人

右之者共、閏七月十三日より当月十四日迄、都合三十日尋被仰付、所々手配仕無懈怠為探候へ共、一切行方相知レ不申、仍之御達奉申上候、以上

未

右村庄屋

八月十四日

桜井岡右衛門

三人

水野篤助様

御陣屋

右之者去辰二月西国順拜ニ罷出候処、いつ方へ参候哉、未夕婦村不仕候

○乍恐御達奉申上候御事（四国巡拜後行方不明のため宗門帳より除きたきにつき）（二六一九三）

右人別之者共去辰年罷出仕候処、未夕いつ方へ参候哉一切音信無御座候、当春より宗門御除ニ被成下候様仕度ニ付、仍之御達奉申上候

乍恐御達奉申上候御事

鶴沼村無高百姓

治右衛門家

巳正月

水野篤助様

御陣屋

右村庄屋

桜井岡右衛門

乍恐御達奉申上候御事

鶴沼村無高百姓ひだか

治右衛門後家

年三拾九

○乍恐奉願上候御事（藤三郎悴文弥行方不明につき宗門帳より除外願い）（二六一三五）

女子るい

年三拾三

乍恐奉願上候御事

式人

各務郡鶴沼村百姓

藤三郎悴

文弥、年式拾貳

右之者共去辰三月、四国順拜之由ニ而罷出候処、いつれ参候哉未夕婦村不仕候

同村無高百姓

龜藏

年五拾九

□□茂作子

忠士

式人

同村無高百姓

甚助悴

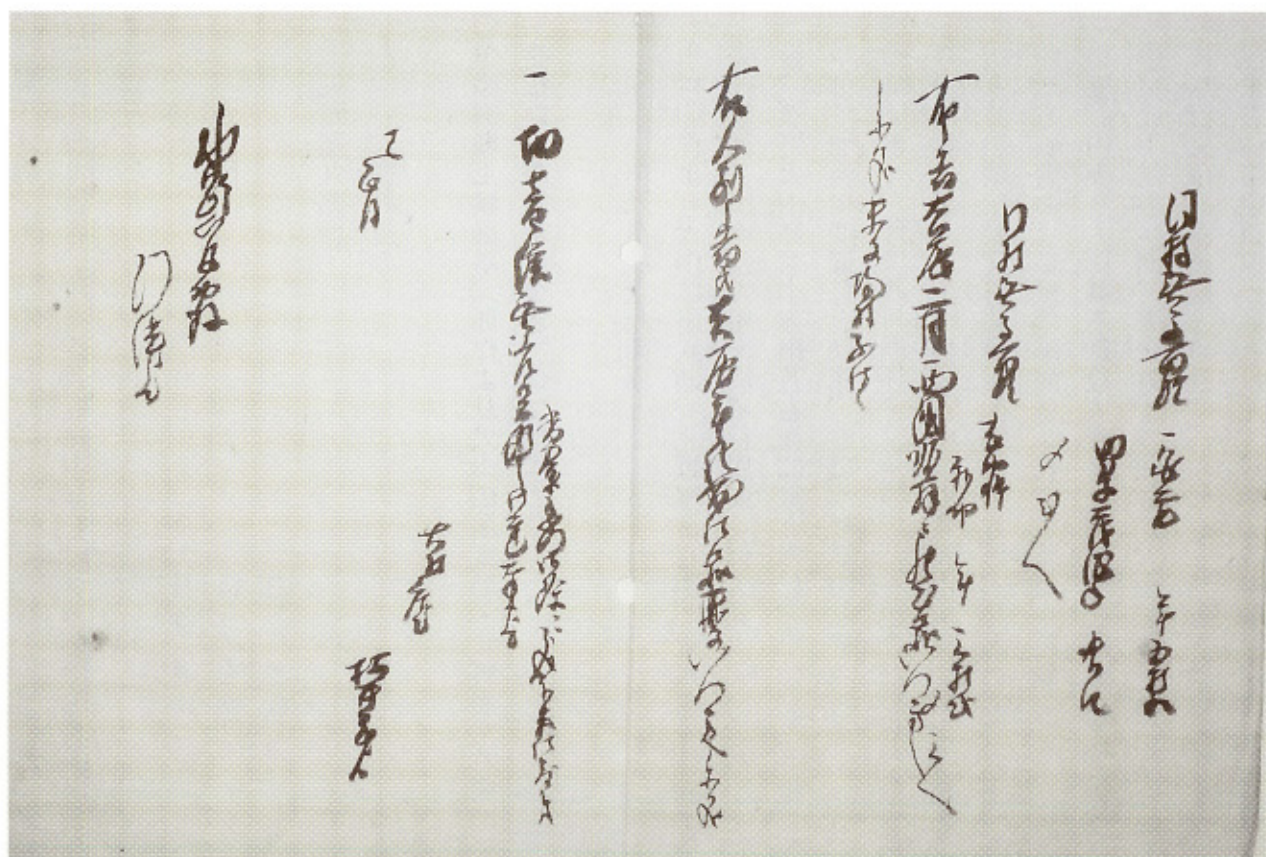
新助

年三拾貳

右之者、去丑八月村方欠払仕いつ方欠落仕何方へ相越候処候共行衛難相知れ候、勿論其後一切音信等不致、候間何卒不埒者之義ニ付宗帳除ニ被成下候様、私藤三郎始、其外近親之者共一同願出候間、何卒当年より宗帳除ニ被成下候様奉願上候、願之通御聞濟被下置候ハ、難有可奉存候、以上

右村庄屋惣代





桜井岡右衛門

とら六月

組頭

桜井茂<sup>②</sup>右衛門

水野篤助様

御陣屋

○乍恐御達奉申上候御事 (去亥年他出のまま音信普通の者につき)  
(二六一—二六四)

乍恐御達奉申上候御事

鶴沼村

無高百姓

李左衛門、年三拾六

右は文政十之者、去亥八月四月付き信州善光寺え参詣之由ニ而、  
村方出立罷出候処、いつ方え相越候哉、其後十向未夕婦村不仕候

同村

無高百姓

清右衛門、年廿六

右之者心願ニ、去亥五月村方出立、四国順拜ニ罷出候所、いつ方  
え参候哉、未夕婦村不仕候

同村

高持<sup>たからもち</sup>百姓

文左衛門、年六拾五

右之者、去亥三月四国順拜并讃洲讃洲金比羅山え参詣仕、夫より  
四国順拜之由ニ而罷出候処、いつ方へ参候哉、未夕婦村不仕候



男三人

右之者共前書之通、他出仕候処途中よりいつ方へ相越候哉、只今  
ニ至迄何之音信不致候付、仍之御達奉申上候、以上

右村庄屋惣代

子二月

桜井岡右衛門

山田甚之右衛門

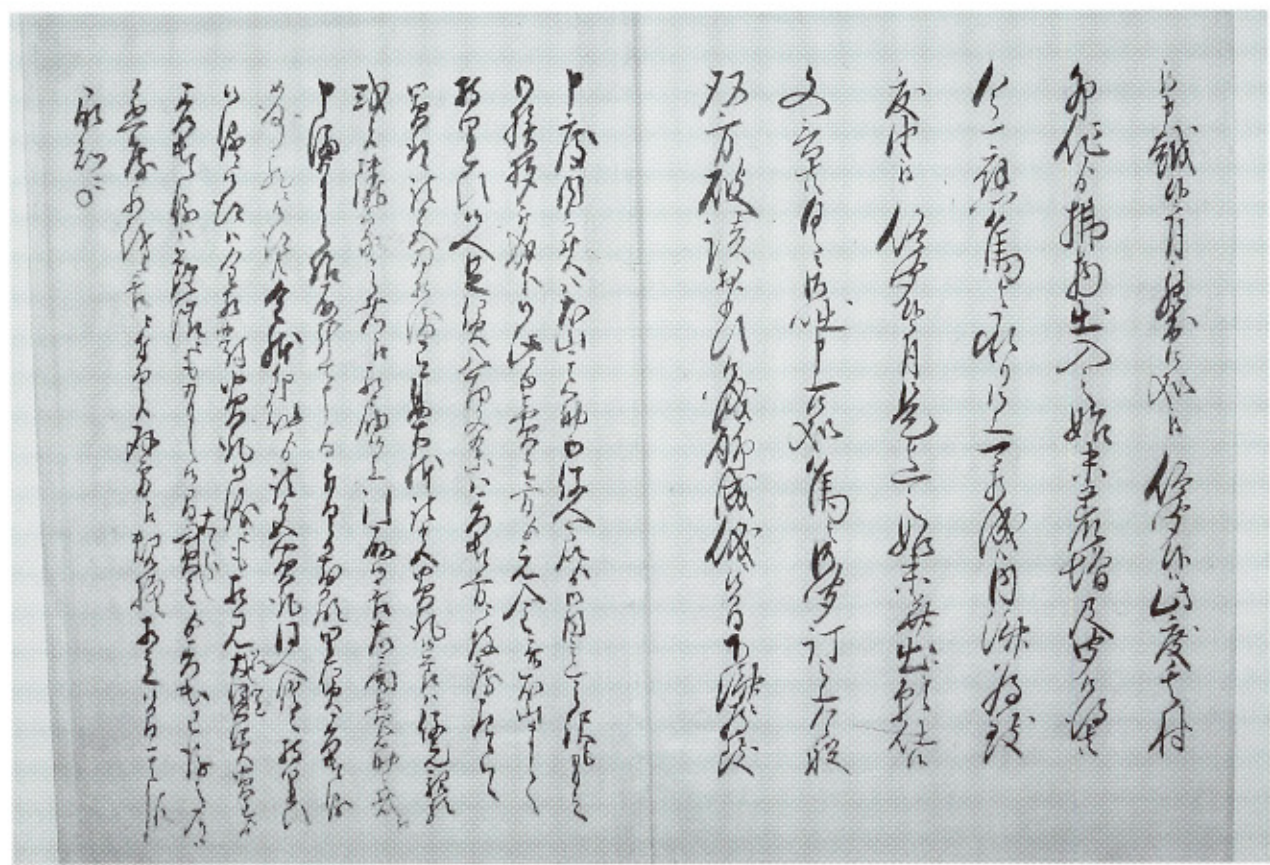
矢野藤九郎様

御陣屋

○乍恐奉願上候御事（卯作より犬山広屋武助・北野屋常右衛門に  
売払い品の始末につき）（二六一―三九）

乍恐奉願上候御事

一 当村卯作より犬山広屋武助、北野屋常右衛門兩人え先達而諸色  
売払候付、段々差入組下濟不行届候ニ付、其段御出訴奉申上置  
候、然処犬山御家中吉田音右衛門殿と申仁、日頃別馬（マカ）ニ相暮候  
ニ付、咄合申度儀有之候間、参吳候様被申越候ニ付罷出候処、  
被仰聞候ハ、此度其村卯作より払物出入之始末荒増及聞候得共、  
今一応篤と承り候上可相成ハ内濟為致度由被仰聞候付、是迄之  
始末并出願仕候文言共具ニ御咄申上候処、篤と御聞訂之上、今  
般双方破談および候儀聊成儀ニ候間、下濟ニ為致  
「申度、内実ハ犬山其筋御役人衆より御内意之訳も有之、御挨拶  
被成下候趣ニ而、売主方より元金并犬山まで持運び候人足  
賃八百文余ハ差出候方ニ致度、左候ハ、買取候諸色為相渡、  
已来右休諸色買取候節ハ役元、親類、或は隣家之者え相届候





上、引取候筈、右商売筋之者え申渡有之候様取計可申旨、付而ハ前頭運賃差出候儀如何歟ニ候得共、全体卯作より諸色買取、同人俱ニ持運ひ候儀ニ御座候得ハ全相對買取候儀ニも相見候処、右賃買主より差出候儀ハ難渋ニも有之候間、右之分買主より差出、已後之ノリハ急度相附候筈ニ付而ハ、双方え規模相立候間、其段承知ニ〇」

度売主より元金并犬山表迄持運ひ候人足賃八百文余之処、為差出候ハ、已後之締り之儀ハ急度御役所より被仰渡、後日右様買取候節ハ、役元・親類、或ハ隣家之者え届ケ候上引取候様御上より被仰渡候手順ニ取計可申候、左候ハ、双方共規模相立候間、其段承知も〇候ハ、内熟為致度趣、叮嚀ニ被仰下候、右ハ私共おゐても元より意味合等を以事を好候儀ニ而ハ無之、已後之締り方御附ケ被下候ハ、少々之人足賃差出候儀強而存寄も無ニ御座候間、右之始末ニ而内熟整候得者、惣方穩成儀ニ候間、何れとも可仕候、乍併最早出訴仕候儀ニ御座候間、私共之了簡ニハ不行届候間、其段御支配御役所え相窺ひ、御願下ケ相叶ひ候儀ニ候ハ、任其意ニ申度、就夫而ハ已後御締り筋之儀ハ弥相違も無御座御付被下候哉、下濟ニ相成候上、等閑ニ相成候而ハ却而御上様えも恐入、且ハ村方えも相立不申候間、其段慥成儀ニ候ハ、御願下ケ取計可申由、再応入念候処、内実承り候得ハ、夫々相手方えも内々御渡り合御座候旨被仰聞候、聊不都合成儀ハ不致由、急度御答ニ御座候間、下濟仕度双方納得仕候間、恐多御願ニハ御座候得共、先達而御願奉申上候願書御下ケ被成下候様仕度、只管奉願上候、右一条ニ付已後御願ケ間敷儀ハ不奉申上勿論、訴答とも一統帰服仕、親類、組合よりも御願下ケ呉候様申出候、何卒願之通願書御下ケ

被成下候ハ、一同難有仕合可奉存候、以上

未

閏七月

鶴沼村組頭

坂井銀右衛門<sup>印</sup>

庄屋

桜井岡右衛門<sup>印</sup>

水野篤助様

御陣屋

〇小伊木ちよんかれ一件控（二六―四八）

〔長紙〕

小伊木ちよんかれ一件控

清須方

柳川広左衛門様

太田方

富田八十郎様

乍恐御達奉申上候御事

一今般清須方御役人様丹羽郡河北村え御越被遊、鶴沼村ニおゐて当三月十日、井ノ口村定藏と申者請負ちよんかれ為致候由、右請負人并庄屋、組頭共、罷出候様御召状参り候付、当村小伊木分若キ者、武兵衛、伝七、治兵衛召連、罷出候処、当三月十日、井ノ口村定藏請負ちよんかれ為致候由、右始末委ク申上候様被仰付、右は武兵衛始外式人より当三月上旬頃、隣村前渡村通り掛候節ちよんかれ致居候付立寄申候節、三人申合慰ニ一日参り

書付下入致し、并林

林蔵

寄集候儀

急度  
不都合之儀

一庄屋心得方之儀も御尋ニ付、

今般居に寄り、以秋村請願候儀、

御尋候儀、方々も御尋ニ付、并村定

御尋候儀、方々も御尋ニ付、并村定

御尋候儀、方々も御尋ニ付、并村定

御尋候儀、方々も御尋ニ付、并村定

呉候様相頼置候処、同月十日定藏始三人連ニて参候付、当村治

兵衛と申者軒ノ下タニてちよんかれ為致、其夜遅候付、同村林

蔵と申者相頼一宿為致、ちよんかれ料として金壹分式朱差遣シ、

林蔵よりは酒壺升、右分之為礼遣申候、右は全慰而已ニて饒別

等ハ請不申儀ニ御座候、勿論役所えも相届ケ不申候得共、ちよ

んかれ始候節、聞ニ御出被下候様申遣候儀ニ御座候由申上候

一組頭長三郎、惣七、十右衛門より申上候ハ、当三月十日、人多

ク寄集り申候付、何事と存候処え、若キ者よりちよんかれ為致

候間、聞ニ御出被下候様申越候付、右は甚以不都合之次第二候

得共、最早ちよんかれも始メ、聞人も寄集り候儀ニ付、已後ハ

急度不都合旨申附、其後寄合之席、庄屋中えも相届ケ申候処、

御檢約中と申、甚不都合之次第二候得共、最早跡之儀ニて致方

無之、已後ハ右体之義、急度相成不申由嚴敷申渡置候様被申

候付、小伊木組ハ勿論、外組をも申渡置候由申上、且宿致候林

蔵儀ハ当六月已来欠払相成候由申上候

一庄屋心得方之儀も御尋ニ付、当三月下旬外相談ニて寄合申候節、

小伊木組組頭より申出候ハ、当三月十日村方若キ者井ノ口村定

蔵と申もの相頼、ちよんかれ為致候処指掛り、私共えも申出候

へ共、為指事共存不申、殊ニ聞人も寄集候儀ニ付、不都合之次

第ハ申遣候へ共、指留不申由申出候付、甚以不都合之次第二候

得共、為致候跡の事ニ候へハ致方も無之、已後ハ右体之義急度

不相成趣、小伊木組ハ勿論外組迄も行届キ候様申渡置候様申談

し、番人共万歳大黒同様之儀ニ相心得、御陣屋へハ御達置不申

旨申上候  
前書は以書付奉申上候処、重而呼出之節無指支罷出候様被仰渡候



而已にて、遠方留之御沙汰も無御座候儀御座候、仍之御達奉申上候

辰閏三月(十一月)

鶴沼村庄屋

山田甚之右衛門

〃

国定市兵衛

〃

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

乍恐御達奉申上候御事

鶴沼村

小伊木分

武兵衛

伝七

治兵衛

林蔵

右ノ者共、口書御取調之上御読せ被成、銘々印形御取被成、遠方留メ被仰付候

右村

組頭

長三郎

同

惣七

同

重右衛門

庄屋

山田甚之右衛門

同

国定市兵衛

同

桜井岡右衛門

右ハ口書御取調之上、銘々印形御取被成候、右は作二日清須御陣屋へ御呼出被為仰付候処、御取扱柳川広左衛門より口書之趣一同御呼出し御読被成、印形御取被成候上、右人別四人之者ハ遠方留被仰付、いづれも一たん婦村可致様被仰渡候、仍之御達奉申上候

未六月三日

右村

庄屋

山田甚之右衛門

同

国定市兵衛

同

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

乍恐請書奉指上候御事

鶴沼村

小伊木分

武兵衛

次兵衛

伝七

林蔵

右之者、去辰三月十日井ノ口村定藏相頼、ち、かれ興業仕候処、  
今般御吟味ニ相成、遠方留被仰付奉畏候、仍之請書奉差上候、以  
上

未六月

右村庄屋

山田甚之右衛門

〃 国定市兵衛

〃 桜井岡右衛門

朝田藤三郎様

御陣屋

○乍恐御尋ニ付御達旁奉願上候御事（鶴沼宿・落合宿・中津川宿  
の拝借金の返上用捨につき）（二六一五〇）

乍恐御尋ニ付御達旁奉願上候御事

一金四拾兩三步

鶴沼宿

一同百六拾六兩三步余

鶴沼宿

落合宿 組合

中津川宿

鶴沼宿

右ハ先年宿々え御拝借仕候由ニ付、御調被為遊奉畏、往古より御  
拝借仕候諸帳面留、段々穿鑿仕候得共、何故之拝借金ニ御座候哉

相分不申、然ル所、此節御取立方被仰付候共、当宿之義ハ天明二  
寅年より文化十三子年迄ニ都合六度焼失仕候付、宿方十統困窮仕  
詰候付、是迄も御返上方御断奉申上置候義ニ御座候、猶又去ル巳  
年家数廿四軒程焼失仕、未夕雜造等も得不仕義ニ御座候間、中々  
以御返上方難行届候間、恐多く御願ニハ御座候得共、右御金御返  
上之義ハ御用捨被成下置候様奉願上候、乍恐右願之通り御聞濟被  
成下置候ハ、難有可奉存候、以上

鶴沼宿

年寄惣代

未

安右衛門

三月

問屋

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

○乍恐御達奉申上候御事（公儀御用・諸家諸大名の旅籠錢につき）  
（二六一五七）

乍恐御達奉申上候御事

御通行之御方旅籠錢之儀、米価高直之訳を以難渋申立、増相願  
候宿方も有之由、就夫天明七未年、米穀高直ニ付旅籠錢御払方  
御公儀様御触之趣も御座候由、付而ハ御公儀御用御通之御方様  
旅籠錢御勘弁品も附居候哉、且此節右様之御触ハ無之候得共、  
米価高直ニ付而ハ右体御通行之御方様旅籠錢、何と敷差別も有  
之哉、天明年并此節共宿々之取扱方品行取調御達可申上旨奉畏



候、右ハ当組合之宿々之義ハ内輪申合、左之通取扱申候

一御公儀御用ニ而御通行之御方様ハ、御朱印御証文等御所持有之、木錢并所相場を以米代御払有之、別段御勘弁品等無御座候

但、天明年も当時同様ニ而、木錢米代申受候義ニ御座候

一諸家様方御旅籠錢、当二月より七月迄ハ上分御老人ニ付貳百廿四文より貳百四拾八文まで、下分御老人ニ付百七拾貳文より貳百文迄、八月上旬より此節ニ至り候而ハ、御老人貳百文より貳百廿四文まで、下分御老人百四拾八文より百七拾貳文迄ニ而、御引合次第申受候義ニ御座候

一天明年米穀高直之節ハ、御公儀様御代替り之砌ニ而、諸大名様并社家、寺院方、御朱印御引替ニ而御判物ニ御附添之御方御通行繁々、別而諸色高直ニ有之、上分御老人三百文より貳百六拾文迄、下分御老人貳百文位申請候義ニ御座候、仍而御尋之趣、宿々連印を以御達申上候、以上

午

九ヶ宿

九月

問屋

水野篤助様

御陣屋

○岩村領目論見新規横道切開方及出訴候由ニ付、当組合宿々一同御呼出御尋ニ付、右御答書旁奉願上候一卷(二六一七二)

〔表紙〕

天保四年

岩村領目論見新規横道切開方及出訴候由ニ付、当組合宿々一

岩村領目論見新規横道切開方及出訴候由ニ付、当組合宿々一同御呼出御尋ニ付、右御答書旁奉願上候一卷(二六一七二)

天保四年  
岩村領目論見新規横道切開方及出訴候由ニ付、当組合宿々一同御呼出御尋ニ付、右御答書旁奉願上候一卷(二六一七二)

同御呼出御尋ニ付、右御答書旁奉願上候一卷

巳八月

鶴沼宿 控

御尋ニ付乍恐御答旁奉願上候御事

今般信州飯田より岩村御城下并名古屋表え之新規横道切開キ、商荷物、牛馬往返為致段、岩村領より出訴及候由ニ付、今般宿々一同御呼出し、右出願之始末絵図面を以被為仰聞、一同承知奉畏候得共、乍恐近来中山道筋御大名様初メ、御家中様共年々御通行薄相成、都而宿々助成も年々相減、必至窮罷<sup>窮乏</sup>在候宿々之儀ニ付、何哉宿助成ニも可相成儀共御願も申上度折柄、右様新規間道切開、商荷物、牛馬通行等之道筋御聞濟出来仕候而ハ、下地困窮之宿々尚更難渋可仕、乍恐右様新道出来候ハ、是迄此筋通行仕候甲州、上州、武州、越後、上田辺より出候商荷物并上方筋參詣旅人迄も、已後ハ右道筋往返仕候儀ハ眼前ニも奉存候、勿論是まで有来り候間道も諸商荷物并諸国神社仏閣參詣之旅人、追々通行仕候儀度々御座候処、兼而公儀御触之趣も有之、且宿々難渋仕候ニ付、其節々御差留方御願申上、夫々御取締被下置候儀ニ御座候、然候<sup>然</sup>今般尚亦新規間道切開、牛馬通行仕候而ハ本道之助成横道え被取候様成行候而ハ、困窮之宿方尚更変□仕、必至難渋可仕と千万歎ヶ敷儀ニ奉存候、弥新道切開キ牛馬往返仕候様相成候而ハ、当宿々ハ不及申上、信州塩尻宿より上筋宿々、商荷物繼キ下地相減候上之儀、尚更此上相減候而ハ、宿々一同難渋之次第可相成、左候而ハ誠ニ不容易儀ニ付、当組合宿々一同談判仕候上、為心得内々惣代を以、右新道切開場所并信州飯田町より濃州岩村、夫より名古屋え之道筋商荷物繼所、并道法等委く内見為仕、別略絵図ニ取調奉

入御覽候、附而ハ前々奉申上候、先年より追々横道商荷物繼立本道之差障相成候儀ニ付、右横道繼御差留方御願申上候節々、夫々御取締被下置候書付控等も写仕、是又奉入御覽候、右之書面趣等厚御賢察被下置、今般岩村領より目論見御座候新道出来不仕候様、宿々一同只管奉願上候、以上

鶴沼宿問屋

桜井岡右衛門

太田宿問屋

磯貝量平

伏見宿問屋

加納市右衛門

御嵩宿問屋

弥左衛門

細久手宿問屋

小栗八郎右衛門

大湫宿問屋

保々市郎兵衛

大井宿問屋

林良左衛門

中津川宿問屋

市岡長右衛門

落合宿問屋

塚田弥右衛門

水野篤助様

御陣屋

天保四巳年八月



○乍恐御達奉申上候御事（宿銭相場につき）（二六―七三）

乍恐御達奉申上候御事

一 正金壹両ニ付銭七貫文 六貫九百文 売

一 正金壹両ニ付銭七貫文 買

右は当五月下旬、当宿銭相場前ぜんげん頭申上候通御座候、右は御尋ニ付奉申上候、以上

午ノ六月

鶴沼宿

問屋

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

○乍恐御願奉申上候御事（有君様御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき）（二六―一二五）

乍恐御願奉申上候御事

一 人足貳百四拾七人

馬 九拾疋

内

人足貳百廿六人

下り方

馬 七拾九疋

太田宿え御継立

人足貳拾壹人

小牧宿え御継立

人足拾壹人  
馬 拾九疋

小牧宿え御継立

有君様 御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき

云々 御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき  
御下向の節御作事方御用継立人馬取調につき

馬 拾壹疋

右は、有君様御下向ニ付、御作事方御役所御用竹木・板類縁取等、  
繼立人馬数之儀、去冬取調御達奉申上置候処、今般御作事方御役  
所より人馬数御調書を以宿々え書出候様御触座候処、先達而御  
達奉申上候とは余程相違仕候ニ付、品々吟味仕候処、右は全ク其  
砌混雜仕、御繼立仕候御荷物之分落帳并御荷物懸り人足落帳等も  
有之儀と奉存、取調方不行届奉恐入候、付而ハ先達而奉書上置候  
願書御下ヶ被成下、今般調之通何卒人馬御手当被仰付被下置候様  
仕度奉願上候、以上

鶴沼宿

辰二月

年寄

山田孫左衛門

問屋

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

○乍恐御達奉申上候御事（有君様御迎登衆上京の節人足困所請負  
代金につき）（二六―一七）

乍恐御達奉申上候御事

一金五兩三分ト銀式匁七分

右は今般、有君様御迎登衆中様御上京ニ付、人足困所之儀御願  
奉申上候処、各別立入至而手輕ニ出来、宿方え請負代金何程相掛  
り可申申哉と御尋被遊奉畏候、吟味仕候処、右之直段ニて宿方え  
御請負出来為仕可申候、仍之御達奉申上候、以上

鶴沼村

問屋

卯八月

桜井岡右衛門

年寄

山田甚之右衛門

水野篤助様

御陣屋

○文政十年四月十二日鷹司右大将様昼休の節頂戴の金子（二六―  
一八二）

文政十年

鶴沼宿本陣

亥四月十二日

桜井岡右衛門

是ハ鷹司右大将様御昼休之節頂戴仕候

一金式分式朱銀四匁三分

右は、御上段畳壹帖備後表紺縁付表かへ

一 玄閑畳六帖小田井表紺縁付表かへ

一同所前住居境御幕式張はり

一 御庭高塀上御幕式張下地拵張

一 御上段初障子切張

一 表門番所畳式帖玄閑古表ニて表かへ

一 御雪隠張窓張替承、壺下ヶ壺とも洗ひ清メ

右之通夫々出来之事

三月

御作事方

鶴沼宿



一金貳分式朱銀四匁三分

内

拾壹匁四分

小田井表六枚

三匁四分

備後表壹枚

残而

金壹分式朱四匁五分渡し

三月

外貳貳百四十八文 上四人分、下六人分

此銀貳匁式分四厘

○百姓番人と交わり芝居・狂言等致すこと禁止につき請書（二六一

五六）

芝居、狂言、物真似之類、番人共ニ為致候儀、願相濟候共、百姓共番人ニ打交、芸品等いたし候ニおゐてハ、急度御咎可被仰付旨候

一 神事等任願差免候而も、右ニ事寄せ金銀多費、奢ケ間敷儀有之ニおゐては、内々遂吟味置、其次第二より追而御用金等可被仰付儀も可有之候間、兼而其段心得置、其期ニおよび違背仕間敷旨候、右之通被仰渡、村方一同急度承知仕候様被仰渡奉畏候、仍之印形差上申候、以上

午九月

鶴沼村

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

芝居狂言物真似之類、番人共ニ為致候儀、願相濟候共、百姓共番人ニ打交、芸品等いたし候ニおゐてハ、急度御咎可被仰付旨候

一 神事等任願差免候而も、右ニ事寄せ金銀多費、奢ケ間敷儀有之ニおゐては、内々遂吟味置、其次第二より追而御用金等可被仰付儀も可有之候間、兼而其段心得置、其期ニおよび違背仕間敷旨候、右之通被仰渡、村方一同急度承知仕候様被仰渡奉畏候、仍之印形差上申候、以上



儉約慎方覚

一 大小百姓男女共、平日衣類地木綿、地布之類ニ限り并紙入たは  
粉道具も金銀鉄具一切相用不申、女襟笄等ニ至迄右同様、都而  
髪鋸り等高価之品相用不申候  
一 村役人并頭百姓、年礼并慶事、仏事、其外他所参会之節ハ絹細  
は着用并妻娘等右ニ准シ申候、右已下之者共、男女共木綿糸入  
嶋等ニ限り帯、腰帶等ハ絹等ニ限ヘシ  
一 祭礼婚礼仏事、其外振舞之儀、都而有合之品、一汁三菜ニ限り、  
花麗之儀一切取扱不申候  
一 年内休日ハ五節句并神事祭礼等之外、猥ニ休日相立不申候  
一 年頭歳暮、其外音物祝儀品も軽キ品ニテ誠ニ印迄ニ取遣□いた  
し并神社仏閣参詣之節、土産物一切不致、札守計可遣事

用事

一 村役人并頭百姓祭礼并慶事(佛事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)  
其外(佛事)并(慶事)并(佛事)并(慶事)

○儉約慎方覚(二六一—一九九)

儉約慎方覚

一 大小百姓男女共、平日衣類地木綿、地布之類ニ限り并紙入たは  
粉道具も金銀鉄具一切相用不申、女襟笄等ニ至迄右同様、都而  
髪鋸り等高価之品相用不申候  
一 村役人并頭百姓、年礼并慶事、仏事、其外他所参会之節ハ絹細  
は着用并妻娘等右ニ准シ申候、右已下之者共、男女共木綿糸入  
嶋等ニ限り帯、腰帶等ハ絹等ニ限ヘシ  
一 祭礼婚礼仏事、其外振舞之儀、都而有合之品、一汁三菜ニ限り、  
花麗之儀一切取扱不申候  
一 年内休日ハ五節句并神事祭礼等之外、猥ニ休日相立不申候  
一 年頭歳暮、其外音物祝儀品も軽キ品ニテ誠ニ印迄ニ取遣□いた  
し并神社仏閣参詣之節、土産物一切不致、札守計可遣事

鶴沼村庄屋

戊三月

桜井岡右衛門

同 国定市兵衛

矢野藤九郎様

御陣屋



○乍恐御達奉申上候御事（大伊木九兵衛病氣につき）（二六一五八）

乍恐御達奉申上候御事

当村大伊木分九兵衛儀、先達而牢舎え仰付候処、病氣ニ付為養生出牢御願申上、御免被仰付養生罷在候処、其後時疫相煩、至而重病ニ付、手錠之儀共御免之儀御願申上、御聞濟被下置難有仕合奉存候、然処、右病氣之儀追々療用差加へ、此節ニ而ハ快氣之趣候得共、右病後之儀ニ付、兎角力附不申、其上折節持病之積氣も差発、逆上仕候ニ付、今以服薬養生罷在候儀ニ御座候、右ハ急ニ本服之力附之程も相見不申、余り延引ニ相成候付、此段御達申上候、以上

鵜沼村庄屋

午九月

国定市兵衛印

水野篤助様

御陣屋

○乍恐御達奉申上候御事（村内困窮者への施しものにつき）（二六一六〇）

乍恐御達奉申上候御事

- 一米六石 鵜沼村
- 一米六石 大竹新右衛門
- 一米貳石 同村
- 東町組村方より

一挽割三石 桜井岡右衛門  
一切米六斗 横山弥左衛門  
折りわり五斗

丸七斗

右は当春已来穀類高直ニ付、村内困窮之者共、難渋及候者共え、ほとこし遣申候、御尋ニ付御達奉申上候、以上

右村庄屋

午八月

桜井岡右衛門

〃

山田甚之右衛門

永田太助様

浅井三兵衛様

○乍恐御達奉申上候御事（当六月洪水の節の損壊所見分済の場所につき）（二六一六一）

乍恐御達奉申上候御事

- 大安寺川筋松屋脇 一堤欠所 老ヶ所
- 長八間半 内 老間棹 三棹
- 内 五間半 三十籠
- 同所久右衛門浦 一堤欠所 老ヶ所
- 長五間

杖之内上ノ井

一棚三重

但し、長五間

壺ヶ所

午七月

桜井長兵衛

富田八十郎様

同所下ノ井

一五間駕籠

四本

○乍恐御達奉申上候御事（日照りのため田畑捍損につき）（二六一）

一一一

惣七井

一長五間棚三重

壺ヶ所

乍恐御達奉申上候御事

一田方百拾六町七反七畝分

各務郡

鵜沼村

自徳寺弥右衛門田縁

一堤欠所

壺ヶ所

内

九拾三町程

白旱病

式拾貳町七反分程

黒旱病

壺町七畝分程

山手方

但し

清水掛候分

上脊直高壺間

馬 五尺

一畑方百六拾壺町八反分程

惣痛相成申候

法り壺間半

敷 貳間

下脊高サ八尺

馬 壺間

腹 貳間

敷 三間

右は当村方留池掛天水場ニ御座候処、去ル六月十八日より照統候ニ付、留池之儀も当月上旬迄ニ水落切り、暑之至迄潤雨も無御座、田畑も早損仕候、最早節ニ而ハ出水等も無御座、田方水掛り方難行届次第ニ相成候間田畑共早損仕候、仍之乍恐御達奉申上候、以上

辰七月

鵜沼村庄屋

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

右ハ、当六月洪水之節損所出来、御見分濟之場所ニ御座候、仍之御達奉申上候、以上



乍恐御達奉申上候御事

花ノ木

一 中田壹反三畝

内

厚砂 八畝一分  
薄砂 五畝一分

外

水押 壹反一分

隱洞下池上ノ方

一 下田貳拾四分

右砂入

○乍恐御達奉申上候御事（花ノ木・隱洞の田地大雨のため砂入・水押につき）（二六一―二七九）

乍恐御達奉申上候御事

花ノ木

一 中田壹反三畝分

内

厚砂 八畝分程

薄砂 五畝分程

外二

水押 壹反分程

隱洞下池上ノ方

一 下田貳拾四分

右砂入

右は当月廿二日・廿三日大雨ニ而金山川通堤切レ込并隱洞下池上ノ方山拔仕、何レも砂入水押ニ相成候間、早速御見分之上砂出し被為仰付被下置候様奉願上候、尤未夕時節も宜敷候間、急々砂出し被為仰付被下置候得は、囲苗取集植付為仕度奉存候間、早速御見分被成下候様奉願上候、以上

鶴沼村

庄屋惣代

桜井岡右衛門

同

大竹翁助

与頭惣代

右は当月廿二日・廿三日大雨ニ而金山川通堤切レ込并

隱洞下池上ノ方山拔仕何レも砂入水押ニ相成候間、早速御見分之上砂出し

早速御見分之上砂出し被為仰付被下置候様奉願上候、尤未夕時節も宜敷候間、急々砂出し

被為仰付被下置候得は、囲苗取集植付為仕度奉存候間、早速御見分被成下候様奉願上候、以上

右は当月廿二日・廿三日大雨ニ而金山川通堤切レ込并隱洞下池上ノ方山拔仕何レも砂入水押ニ相成候間、早速御見分之上砂出し

早速御見分之上砂出し被為仰付被下置候様奉願上候、尤未夕時節も宜敷候間、急々砂出し被為仰付被下置候得は、囲苗取集植付為仕度奉存候間、早速御見分被成下候様奉願上候、以上

良助<sup>印</sup>

同

権七<sup>印</sup>

矢野藤九郎様

御陣屋

○乍恐御達申上候御事 (いもち病流行により困苗できずにつき)

(二六一一九五)

乍恐御達申上候御事

先達而困苗致置、欠数等取調御達申上候様被為仰付奉畏候、然処  
当村之儀も一面ニいもち附甚迷惑仕候、尤村方之儀ハ有合候苗之  
外、隣村等ニ而貴請、ケ成ニ植付ハ仕候得共、困苗之付ハ一切出  
来不仕候、仍之御尋之義御達奉申上候、以上

戌五月

鶴沼村

庄屋惣代

桜井岡右衛門

矢野藤九郎様

御陣屋

○乍恐御請書之事 (酒造締りにつき大竹新左衛門酒造高改め)

(二六一六五)

乍恐御請書之事

酒造株高三分一分

一米百四拾石

右ハ酒造締り之儀ニ付、先達而從公義御触通、造高之三分一迄酒

造元入之儀不苦候旨、付而ハ私株高之内前頭石高之外酒造之儀決  
而仕間敷、若心得違過造等之風聞有之おゐてハ、御改之上急度御  
咎可被仰付旨をも被仰渡奉畏候、依之御請書奉差上候、以上

午九月

水野篤助様

御陣屋

右大竹新左衛門え被仰渡候趣承知仕、締り方之儀ハ私共え被仰付  
候間、立入吟味仕、精密ニ改方取計可申旨、若少ニ而も過造之風  
聞有之おゐてハ、酒造屋ハ勿論、私共迄も急度御咎被仰付候間、  
背筋出来不仕様、精々可心懸旨被仰渡奉畏候、依之奥書印形差上  
申候、以上

右村庄屋

桜井岡右衛門

組頭

五助

頭百姓

太兵衛

○下書 三通 (石屋半右衛門先祖由来・石工仕事につき) (二六一

八九)

〔表紙〕

下書

三通

〕

奉指上一札之事



一石工佐右衛門、明曆二年泉州より罷越小家を繕ひ細工仕候

一其子与右衛門、元禄年中犬山え石店を出シ、享保年中二犬山住人ニ相成、当村ニ小家をも取立細工仕候、其後犬山御城御用被仰付代々相勤来り候并御役相勤申候

一文化元年子秋、御作事方より始而御役被仰付候処、又々同七年御免ニ相成申候、当半右衛門ニ而六代ニ相成申候

一石切出シ候儀、先年より御用石切出シ、其割屑或ハ残り石申請売石仕候、又はうき石御座候山ハ夫々<sup>おれおれ</sup>相對を以買請切出シ申候、村方へ運上米壺石宛出シ申候、御石碑御用石切出シ之節ハ名古屋井ノ上長兵衛へ被仰付、右より当半右衛門へ申付切出シ申候、以上

文政元年

寅十月

鶴沼村庄屋

桜井岡右衛門

御普請方

御役所

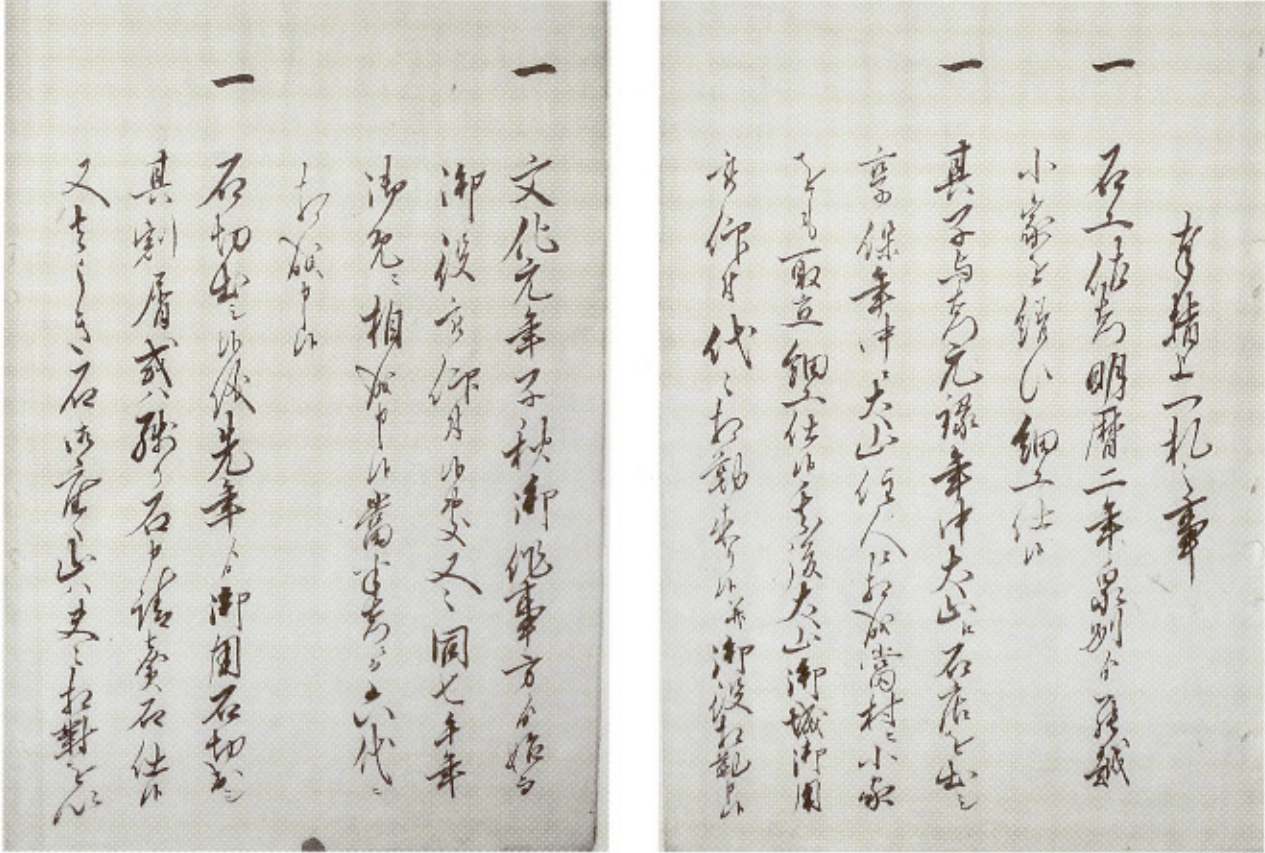
奉指上候一札之事

一私先祖佐右衛門、泉州日根郡黒田村之者ニ御座候処、明曆二年当村へ罷越小家を繕ひ石細工仕候

一悴与右衛門、元禄之始犬山中切村へ石店を出シ渡世仕来り候、

且享保年中犬山住人ニ相成、当村ニ小家をも取立細工仕候、其後犬山御城御用被仰付、取続代々相勤来り候、并御役相勤申候

一石切出シ之儀、先年建中寺御廟御用石切出シ、其割屑或ハ残り石頂戴仕売石仕候、浮石御座候山ハ夫々相對を以買請切出シ申候、村方へ年貢として米壺石宛毎年指出し申候、依而外より石商売之者入込切出シ申儀一切無御座候



一先年御用石切出シ申候場所ハ釜ヶ谷と申所、宿方よりハ七八丁奥山中ニ御座候、右場所ハ只今ニいたり御留場と申伝来り候、尤も是ハ余程難所ニ御座候

成瀬隼人正様

竹腰山城守様

御代々御石碑是迄切出し申候

一文化元子年、御作事方より始而御役被仰付候処、同七年御免

ニ相成申候、当半右衛門ニ而六代ニ相成申候

乍恐右之趣奉申上候、以上

文政十年

石屋

亥五月

半右衛門

御普請方

御役所

乍恐御尋ニ付奉申上候事

一今般石之儀御尋被為遊候ニ付奉申上候、鶴沼村之内当時石切出シ候場ニ留場と申所無御座候、尤壺ヶ所御座候得共、是ハ山中ニ而模通<sup>もとおわり</sup>悪敷場所ニ御座候、是迄一切手指不仕候場所ニ御座候、尤も御用石并竹腰山城守様、成瀬隼人正様御用之節も右場所ニ而は切出シ不申、私控え山之内ニ而切出、是まで御用達仕置候、当村石切出シ之儀いづれ之御役所よりも被為仰渡候儀等無御座候、是ハ御用石被為仰付候御向々之御注文書を以被仰付候義ニ御座候、然ル処先年御普請方御奉行様石場御見分被遊候、当時石切出シ候山之図面等御取被遊候義御座候、右故石之儀は御普請方御支配と是迄承知仕居候儀ニ奉存候、依<sup>これより</sup>之右之趣乍恐以書

付奉申上候、以上

文政十年

亥正月

御作事方

御役所

不用分

〔表紙裏〕

┌

石屋

半右衛門

○乍恐書付指上申候御事（鳩三・四羽程種鳩にしたきにつき）  
（二六一—〇二）

乍恐書付指上申候御事

一鳩 三四羽程

鶴沼村

右は当村鳩部屋ニ当時附申候、一向附悪敷<sup>あし</sup>候ニ付、追々餌飼仕置候、当四月頃より巢引仕候様子ニ相見へ申候、右鳩ハ種鳩ニ仕度、仍之御達申上候、以上

鶴沼村庄屋

桜井岡右衛門

辰十月

御鷹場

御役所



○乍恐奉願上候御事（瓦焼の土字葺池雨池中より取るにつき）  
 （絵図面付）（二六一—一三〇）

乍恐奉願上候御事

私義農業之間ニ瓦焼仕度奉存候、付而は右土取場之儀、当村字葺池雨池中ニ小段有之候ニ付、右之場所より土堀出し申度奉願上候、右雨池之儀、水持宜村内用水各別之池ニ御座候付、堀下ヶ候得は尚更模通も宜奉存候、右は当村国定市兵衛儀御願申上、右小段追々堀取、瓦焼出候儀も大造之堀土ニ御座候間、右之内ニ而年々少々宛堀出申度、村中一統納得仕故障無御座、御為金之儀は御指図次第上納可仕候間、仍之別紙絵図面相添奉願上候、右願之通被仰付被下置候ハ、難有仕合可奉存候、以上

鶴沼村

文兵衛

卯正月

水野篤助様

御陣屋

右文兵衛御願奉申上候通相違無御座候間、御聞濟被下置候ハ、尚更用水模通ニ相成候儀ニ御座候間、願之通被仰付被下置候様仕度奉願上候、以上

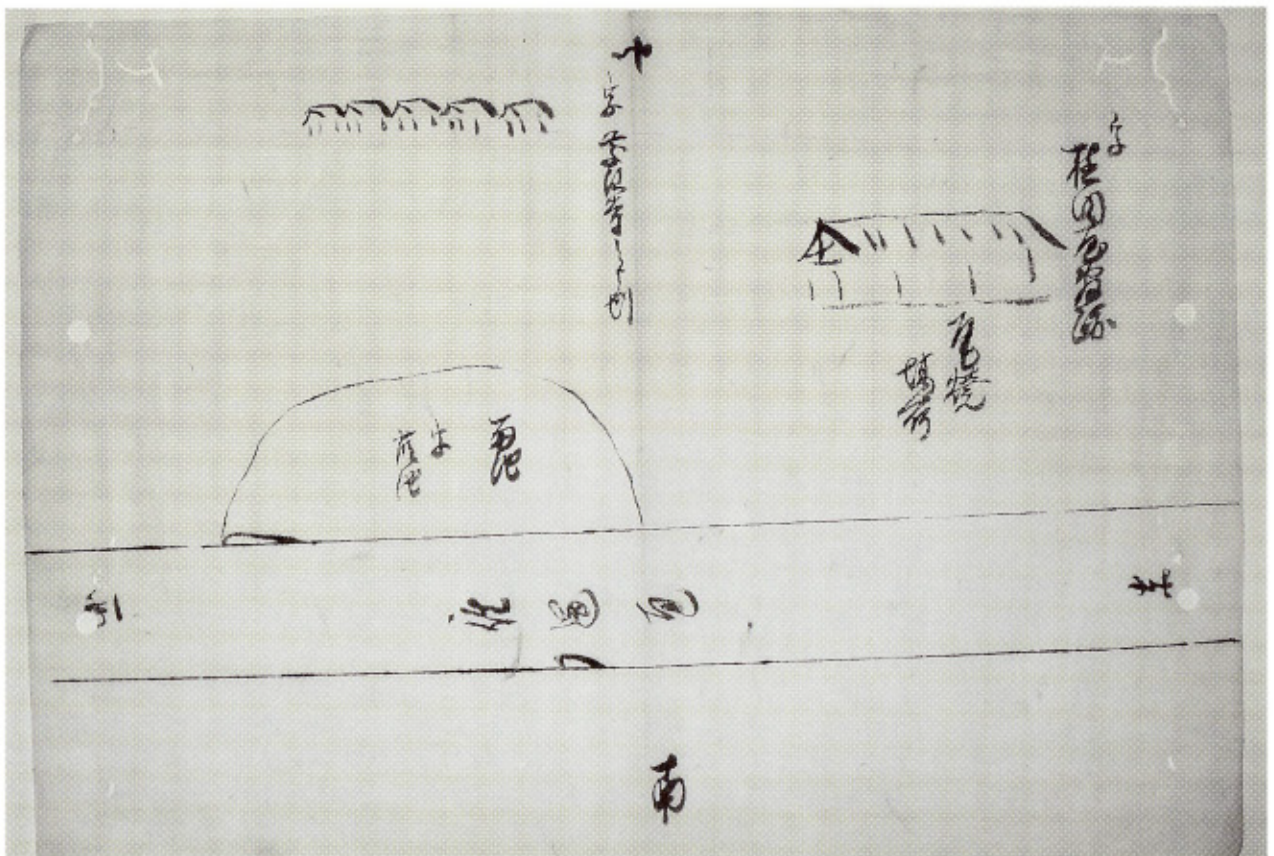
右村庄屋

卯正月

桜井岡右衛門

組頭

坂井銀右衛門



○乍恐奉願上候御事（医師仙庵宿方御用懸り仰付願いにつき）  
（二六一—一三七）

乍恐奉願上候御事

当村本道医師伊神仙庵儀、宿方御用懸り被仰付被下置候様、別紙を以奉願上候、右は医師右医師仙庵御願奉申上候通医道二代相統仕、当仙庵義、父同姓養庵より伝授、本道医術多年修行仕、文化七午年九月老人立療治願御聞濟被下置、当宿村は勿論、他所迄も出精手広療治仕、困窮之者共えは施薬等も追々仕来、殊更宿方え付而は御用通之御方を初、旅人急病之節立入治療仕、甚模通ニ相成候者ニ御座候、何卒仙庵奉願上候通、宿方御用懸り被仰付被下置候様、私共ニおゐても奉願上候、右御許容も被成下置候ハ、猶更医業之励ニも相成、旅人等病氣之節無差支模通ニ相成申候間、格別之御憐愍を以願之通被仰付被下置候ハ、一統難有仕合ニ可奉存候、以上

鶴沼宿

問屋庄屋

寅四月

桜井岡右衛門<sup>印</sup>

問屋 野口貞兵衛<sup>印</sup>

庄屋 国定市兵衛<sup>印</sup>

同断 山田甚之右衛門<sup>印</sup>

年寄 坂井銀右衛門<sup>印</sup>

水野篤助様

御陣屋

○乍恐奉願上候御事（水車で飯米・青米搗き年期明けにつき五  
年間延長願い）（二六一—一六六）

乍恐奉願上候御事

一水車ヶ所 搗臼三柄  
右ハ去ル未年より去亥年迄、五ヶ年之内御願濟ニ而、飯米・青米為搗来り申候処、当子年限明キ相成候付、何卒当子年より辰年迄五ヶ年之内、右同様御聞濟被下置候様奉願上候、願之通り御聞濟被下置候ハ、難有仕合奉存候

鶴沼村

桜井岡右衛門

矢野藤九郎様

御陣屋

右岡右衛門御願奉申上候通相違無御座候、尤村方納得之儀ニ而故障無御座候間、当人願之通御聞濟被下置候ハ、難有可奉存候、以上

右村庄屋

山田甚之右衛門



○乍恐奉申上候御事（犬山中切村半右衛門鶴沼石切出し、村方相對年貢一石毎年指出すにつき）（二二六—一八五）

乍恐奉申上候御事 「（未詳）」  
文政十年

亥正月

太郎右衛門 孫右衛門

嘉蔵 半右衛門

鶴沼石切出し方、当村御差留ニ相成候儀ニ候哉、且御自分御入用ニ而御取寄ニ相成、差支候儀無之哉、御尋被為遊奉畏吟味仕候処、石切出し方、当時御差留と申儀は一切無御座候、併宿方より北え七八町奥山中ニ釜ヶ谷と申所ニ留場と申所老ヶ所御座候、右留場之儀、何方より御差留ニ相成候哉、年月等相訳り不申候、先年より留場と申伝へ候儀ニ而、右場所ニおゐてハ石切出し不申、当時石切出し申候場所ハ石切山と相唱候所ニ而、犬山中切村半右衛門と申者、先年より村方相對御年貢として米老石宛毎年指出、右山より石切出し申候儀ニ御座候、付而ハ御自分御入用ニ而御取寄ニ相成候共、右半右衛門え被仰付、御切出し被仰付候へハ、外ニ差支之筋無御座候得共、外より石切商売之者入込、右山より勝手次第切出し候得ハ、右申上候通半右衛門より年貢米も差出候儀ニ付、差支申候、此段御尋ニ付奉申上候、以上

亥正月

鶴沼村

庄屋

桜井岡右衛門

矢野藤九郎様

御陣屋



○乍恐御達奉申上候御事（忠左衛門京都において引渡につき）  
（二六一六九）

乍恐御達奉申上候御事

先達被仰渡候当村忠左衛門義、京都表おゐて御引渡シニ相成候付、  
右御用向御勘定所にて被為仰付え、当月四日罷出候所、小嶋伝左  
衛門様より被為仰渡候趣左ニ奉申上候

京都西町御奉行所、尾州勘定所  
西村東蔵様、小嶋伝左衛門  
北村栄助様、吉田鹿助

但シ白木御状箱

外ニ（図：「瀬戸製瑠璃井」

「上六寸四方」

「脊高サ五寸」

（図：「瀬戸製瑠璃井」

「寸明同断」

（図：「瀬戸製染附鉢」

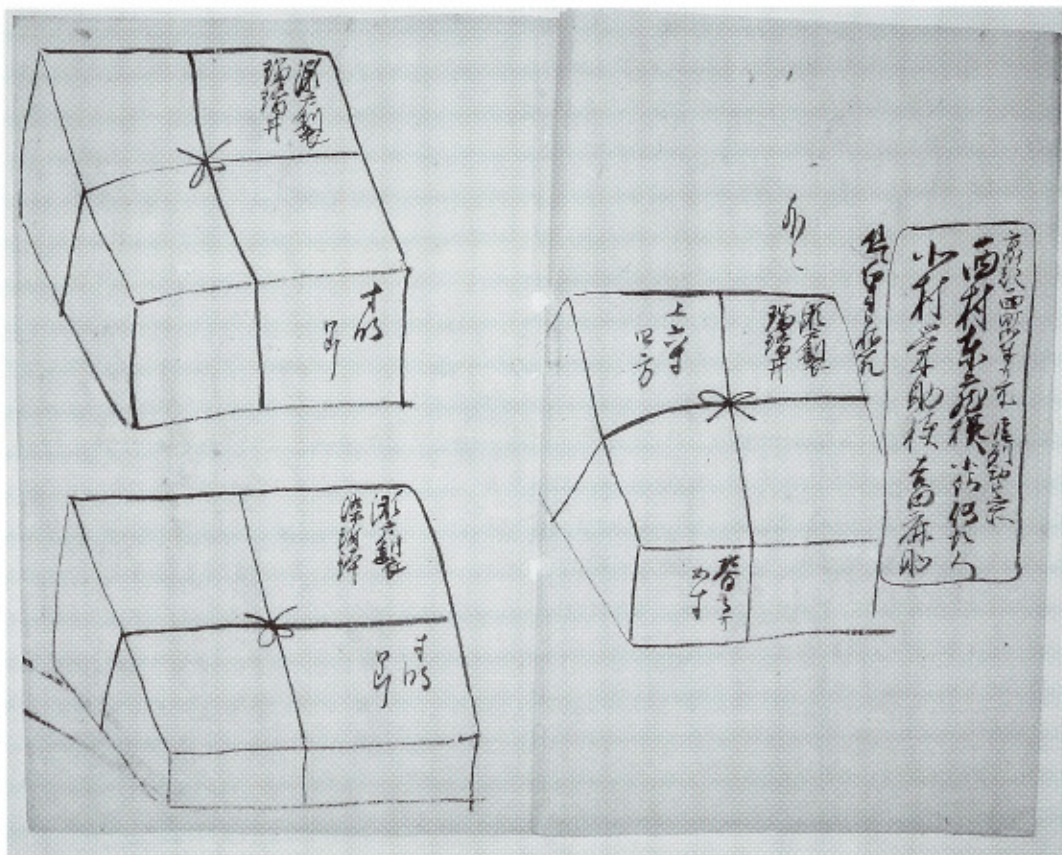
「寸明同断」

右之通京都着之上、右御兩人様へ差出し候様被仰付候付、今五日  
早朝、村役人并親類之者さし立発足為致申候、仍之書付を以御達  
奉申上候、以上

午七月五日

桜井岡右衛門

水野篤助様  
御陣屋





○乍恐御達奉申上候御事（宇蔵ほか七名茂吉方にて博奕・喧嘩するにつき）（二六―七七）

乍恐御達奉申上候御事

鶴沼村

博奕宿茂吉

人別西町組

宇蔵

同 為助

同 乙吉

同 吉治

同 源兵衛

羽場町組

同 三治

同 直蔵

各務村無宿

勇右衛門

右は当月三日夜、茂吉方おみて博奕仕候上、口論いたし候由相聞候付、追々穿鑿仕候処、人別取調御達奉申上候、喧嘩之始末ハ別紙之奉申上候、一旦相静り一同引退候得共、右宇蔵、勇右衛門跡ニ残り居候処、相手方之者立帰り又候勝負いたし度旨申出、不得止事打擲ニおよび申儀ニ御座候、仍之御達奉申上候、以上

鶴沼村

庄屋

午五月

組頭

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

嘉右衛門

○乍恐御達奉申上候御事（博奕打ちの者呼出し、厳しき御訂仰付けられたきにつき）（二六―一九六）

乍恐御達奉申上候御事

鶴沼村

藤三郎

徳右衛門

為助

茂吉

菊右衛門

佐次右衛門

忠兵衛

源七

右之者共、折節仕所奕博等致候者共宿いたし候付、右ニ而ハ村方博奕締ニも不相成候付、右体之者宿不致様精々吟味仕申付置候得共、庄屋表ニ而ハ一旦承知いたし引取候へ共、今以折ふし仕所博奕等致候体之者共宿いたし、勿論逗留等為致候付、村方不締りニ相成候間、右之者共村役人より申付候一条一切相用ひ不申者共ニ候間、急々不残御呼候之上、嚴敷御訂シ被為仰付被下置候様仕度奉願上候、仍而此段御達奉申上候、以上

右村庄屋

桜井岡右衛門

組頭

坂井銀右衛門

嘉右衛門

十助

治左衛門

矢野藤九郎様

御陣屋

○一札（彦根厩方曾平次鶴沼宿において変死につき）（二六一—

二三）

一札

当月十五日、於当駅彦根厩方、曾平次と申者変死致候付、其節早速御支配御役人様御出張有之、右死骸并諸色等御吟味御改之上、当所三昧ニ仮埋ニ被成下置、其段水野篤助様より国許用人中へ御飛札御知らせ被下候付、右用人中より当駅迄私罷越シ、右死骸御引渡被成下候上、取片付致候旨被申聞候ニ付、当宿迄罷越候、則、水野篤助様え用人中より御返答書太田御陣屋表え差上申候処、為念右死骸私共一見致候様、右御陣屋表ニ而被仰聞候儀ニ御座候、然処、御檢使御役人様御吟味御改被下置候儀ニ御座候故、私一見ニ及不申候得共、格別以御丁寧ニ被仰聞候儀ニ御座候間、任其意宿御役人中立合之上、右死骸見請候処、既方曾平次ニ紛レ無御座、勿論疵等之儀は全ク自身之□ニ相違無御座候、諸色等も当人国許出立之節所持致罷出候諸色、是又相違無御座候間、其段各方より其筋え早々御達シ被成下、右死骸御渡被下候様仕度、最早彼是日

数も相立候事故、御調之上死骸私共え早速御渡シ被下置候ハ、難有仕合ニ奉存候、然上は当所三昧拝借仕、取片付等仕度候、仍之一札如件

井伊掃部頭御内

卯四月廿九日

鶴沼宿

御問屋 衆中

御年寄

○乍恐御達奉申上候御事（小七栗須村縁者の葬式帰りに木曾川通

破宝巻で水死につき）（二六一—二二五）

乍恐御達奉申上候御事

各務郡鶴沼村

高持百姓小七、年四拾五歳

右之者当月十九日、栗須村縁者之内ニ不幸有之候、葬式ニ相越候処、当日帰村不致候ニ付、早速右村親類之者方え尋遣候処、右ハ同日八ツ半頃ニも葬式相済、此節田方植付中ニ付片時も早く帰度由申聞、同日七ツ時頃栗須村出立、夫より繼鹿山下夕通、近道を帰り候由申置、右村出立候由、右ハ栗須村出立候節ハ犬山表親類之者磯右衛門と申す者耆人同道いたし出可被申候由、栗須村ニ而申聞候間、早速引取犬山表親類之者方へ向相越、小七行衛相尋候処右之者申聞候ハ、栗須村より繼鹿山下夕犬山道と内田山近道、犬山え之本道と内田渡場え之わかれ候所迄同道いたし、暮ニも及候間、本海道可参様磯右衛門より相進メ候処、此節植付中ニ而、苗も二・三度植付候様取置候付、一刻も早く帰度由申聞、繼鹿山



下タニ而近道し、相越しわかれ出可被成候由承候而、組合并親類之者共右道筋早速為相尋候処、尾張方内田山暫く下タ之方ニ木曾川通字破宝卷と申場所、道端ニ小七所持罷出候菅笠之かい扇之手有之、草履片シ小右卷所側岩の上ニ有之、外片足小片シ小右卷所、外片足ハ岩途中半芝の株ニ掛し居申候旨、場所見届ケ、右之趣達罷出候間申出候付、右様子ニ而ハ水死致候儀とも奉察候間難計奉存候間、尚更組合并村方之者夫々手配為致、木曾川通笠松辺を尾張方・美濃方共為相尋候得共、未タ行衛難相知れ候、然ル所当月廿日朝、内田村下役女房山稼ニ罷出候処、右木曾川通破宝卷所より暫く上之方之道端ニ木綿紺染風呂敷包旁捨有之候ニ付、拾ひ揚ケ内田村庄屋ニ指出置候処、其段右村より当村へ当月廿日四ツ時ニ知らせ呉候間、早速当村小七親類之者共、内田村庄屋へ向キ指遣し、諸色見せ申候処、弥小七所持罷出候諸色ニ相違無御座候間、賈請参置申候、勿論当村小七家内之儀ハ、当卯年六拾歳ニ相成候母老人ニ而、小七儀当年ニ至迄未タ妻合も不致、是迄家内式人キ而渡世仕居ル者ニ御座候、勿論妹老人御座候へ共、此者ハ四五五年跡より名古屋表へ奉公稼キ罷出居申候仕合ニ御座候、仍之尚更村方ニ而も小七親類并組合之者共一統相控、若内輪おゐて喧嘩口論等致候儀も無之哉、委細ニ相訂候得共、右様之儀一切無御座候由、一同申聞候、爰ニ奉申上候、内田山下タ破宝卷と申場所近道之儀ニ付、至而細キ道場故路はつし水死致候儀とも相見へ申候間推察仕、外如何と心付候儀無御座候、仍之当人諸色并其節着用之着類・人相書共相添御達奉申上候、以上

卯五月

右村

庄屋

桜井岡右衛門

水野篤助様

御陣屋

○各務郡鵜沼村百姓小七人相書（二六一—二二六）

各務郡鵜沼村百姓小七

人相書

一年齡四拾五歳

一面体長ク色黒ク

瘡瘡之跡有

一鼻高ク耳目常体

一中肉瘦肉

一齒並揃ひ眉毛濃キ方

一髪月代濃キ方

○着用之着類（小七着用衣）（二六一—二二七）

着用之着類

一木綿立縞紺花色単衣物

壹枚

一紋はかた帯

壹筋

一下夕帯

壹筋

一白茶綿き紙入

壹ツ

但し 此中ニちゝふ壹巾のかたき□壹入

一脇差

壹腰

一木綿襦袢

壹枚

一紙煙草入

壹ツ

一ちゝぶ小紋羽織

壹枚

○風呂敷包之内へ入候品（小七所持品）（二六一—二二八）

風呂敷包之内へ入候品

一麻<sup>かみしも</sup>上下

壹具

一広浅立縞袴

壹具

一花色染手拭

壹筋

○訴訟書之写（小伊木林蔵借財の取扱始末一件）（二六一—八六）

小伊木林蔵借財、犬山坂井屋

源兵衛へ懸り候金談不実出入

取扱之始末左ニ印

訴訟書之写

乍恐以書付奉願上候

野田斧吉支配所

濃州各務郡古市場村

訴訟人 百姓 源兵衛

差添庄屋 喜内

一取替金不実出入当御領

同州同郡鶴沼村之内

小伊木百姓

相手方 林蔵

親類証人 平三郎

庄屋 太左衛門

引合 正法寺

卯十二月取替

一元金拾五兩

卯十二月より

辰九月迄

利銀百拾式匁五分

内

金八兩三分 辰九月廿六日請取

引元金六兩壹分 辰十月より



利銀百八匁

卯三月  
乙七月迄

合元金八匁

引ノ利銀七拾匁ト

口合元金拾匁ト

利銀百匁拾匁ト

右訴訟人百姓源兵衛より、当御領百姓林蔵外三人え相懸り御出訴奉申上候は、去ル卯年十二月中同人罷越し申聞候ハ、御年貢ニ差詰り候付金拾五兩取替呉候様相頼来り候所、心当無之一旦相断申立候得とも、強而難渋之始末申聞候間、無拠他借仕右金取替遣し候所、又候同人より同村正法寺今般必至と差支出来仕候趣、是又相頼候付、無余義同人取次を以正法寺より証文取之、金八両出金遣し置候所、期月ニ至り林蔵より式口共二匁ヶ月猶予いたし呉候様申聞候故、任其意差延置候所、私義四月中他行仕候内同人留主中え罷越、私シ女房へ申聞候ハ、先般正法寺より差入置候証文面之通り不計返済方延引ニ付、今般外ニ而金子手段仕候所、右引当之品無御座候而ハ金子手ニ入不申、暫く右証文貸呉候様と申儀、

右訴訟人百姓源兵衛より、当御領百姓林蔵外三人え相懸り御出訴奉申上候は、去ル卯年十二月中同人罷越し申聞候ハ、御年貢ニ差詰り候付金拾五兩取替呉候様相頼来り候所、心当無之一旦相断申立候得とも、強而難渋之始末申聞候間、無拠他借仕右金取替遣し候所、又候同人より同村正法寺今般必至と差支出来仕候趣、是又相頼候付、無余義同人取次を以正法寺より証文取之、金八両出金遣し置候所、期月ニ至り林蔵より式口共二匁ヶ月猶予いたし呉候様申聞候故、任其意差延置候所、私義四月中他行仕候内同人留主中え罷越、私シ女房へ申聞候ハ、先般正法寺より差入置候証文面之通り不計返済方延引ニ付、今般外ニ而金子手段仕候所、右引当之品無御座候而ハ金子手ニ入不申、暫く右証文貸呉候様と申儀、

巳五月迄

利銀三拾七匁四分八厘

金元金六兩壹分

利銀百四拾九匁八分八厘

卯十二月取替

一元金八兩

利銀百八匁

巳五月迄

内

三拾七匁八分 去辰七月

利銀之内へ預り

合元金八匁

引ノ利銀七拾匁式分

式口合元金拾四兩壹分

利銀貳百貳拾匁壹分八厘

右訴訟人百姓源兵衛より、当御領百姓林蔵外三人え相懸り御出訴奉申上候は、去ル卯年十二月中同人罷越し申聞候ハ、御年貢ニ差詰り候付金拾五兩取替呉候様相頼来り候所、心当無之一旦相断申立候得とも、強而難渋之始末申聞候間、無拠他借仕右金取替遣し候所、又候同人より同村正法寺今般必至と差支出来仕候趣、是又相頼候付、無余義同人取次を以正法寺より証文取之、金八両出金遣し置候所、期月ニ至り林蔵より式口共二匁ヶ月猶予いたし呉候様申聞候故、任其意差延置候所、私義四月中他行仕候内同人留主中え罷越、私シ女房へ申聞候ハ、先般正法寺より差入置候証文面之通り不計返済方延引ニ付、今般外ニ而金子手段仕候所、右引当之品無御座候而ハ金子手ニ入不申、暫く右証文貸呉候様と申儀、

勿論別紙証文呉候様と申儀、勿論別紙証文尙対引替ニ差入可申段申合ニ付、実意成儀と存貸シ渡、然ル内私帰村故証文一見いたし候所、以之外不実之証文、甚以難心得直様正法寺へ罷越シ相尋候処、同寺よりハ右入之金之儀ハ元利共林蔵え四月廿二日相渡し、則証文取置候上ハ当寺にて致方無之と申儀、夫より証人忠左衛門え相懸候所、右名前之者同村ニ無之趣、案外仕村役人加判之者え及懸合候処、当人儀欠落いたし此上如何体相成候共致方無之、乍去質物家屋敷売扨同人借用之分ハ夫々模様相付可申、正法寺相懸候金子之儀ハ難申付様申聞候得は、全く私留主附込、偽り証文引替欠落いたし候段心外奉存候、此假難捨置再三村役人加判人及懸合候処、金拾五兩之内金八兩三分差越、其余ハ種々申繕而已ニ而相渡不申、然共当人欠落仕候付不得止事差控罷在候内、林蔵村方え立戻り御百姓相続仕居候間、正法寺偽証文引替之始末、外証文金之分掛合仕候処、我假勝手而已申立取合不申、猶村役人及懸合候処是又不行届右体不実之取計、其上不法申立候而ハ心外千万奉存シ候間、不顧恐多御訴訟奉申上候間、何卒各別御沙汰を以証文偽り引替候次第、相手方并引合之者一同御呼出シ之上、逸々御吟味被為仰付被成下候様仕度、尤証文写相添奉願上候、余ハ乍恐被遊御尋候節口上を以奉申上候、以上

野田斧吉支配所

濃州各務郡古市場村

天保四巳年六月

百姓源兵衛

訴訟人差添

庄屋 喜内

太田

御陣屋

借用申金子之事

一正金八兩也 利足之儀ハ壹ヶ月ニ

七分五厘ツ、

右は当寺要用ニ付、前頭金子儲ニ借用申所実正也、此質物ニ境内竹木不残書入申候、返済之儀は来辰三月切急度元利共返済可申候、若相滞り候ハ、加判之者え引受急度返済可申候、為後日証文仍而如件

小伊木村

天保二卯十二月

正法寺印

加判 林蔵印

庄屋 大竹太左衛門印

坂井屋 源兵衛殿

借用申金子之事

一正金八兩は 一元金也

此引当ニ所は三浦山四ヶ所上木共

右之金子儲ニ借用仕所実正也、但利足之儀ハ壹ヶ月七分五厘、返済之儀ハ、来辰五月限元利共急度返済可仕候、少ニ而も滞り候ハ、引当以御勘定可仕候、仍而如件

天保貳年

借主 林蔵印

卯十一月十五日

受人 忠左衛門印

坂井屋源兵衛殿

借用申金子之事

一正金拾五兩也

但利足之儀ハ金壹兩ニ付



借付仕向身更、南ノ下金更ノ借付  
家金更並小好細ニ取立る事ハ取所ノ借  
者更ノ入ノ小好細ニ取立る事ハ取所ノ借  
利大ニ取立る事ハ取所ノ借  
取所ノ借立る事ハ取所ノ借

天保二年  
卯二月

小伊木村借主

林藏印

平三郎印  
惣七印

坂井屋源兵衛殿

大竹太左衛門印

乍恐奉願上候御事

頃日私共之下濟取扱方蒙仰候小伊木村林藏元相懸り、古市場村源  
兵衛御訴訟奉申上候金談之一件、数度双方え立入申談候処、源兵  
衛儀濟口相談ニ加り呉不申迷惑仕候、源兵衛申聞候ニハ、林藏儀  
正法寺へ取替遣シ置候金子、右寺より返済旨にて出候金子他行之  
留主を附込參、家内之者へ正法寺より預ケ置候本紙証文偽り、証  
文差入引替候始末筋ニ而、過分之金子手ニ入同人立退候事ニ候故、  
同人立歸り之砌、右金子之遣ひ先等穿鑿也仕候処、林藏暮方不慥  
成何れニ欺右節之金子預ケ置候様子ニ見請候間、乍恐今一応右等  
之始末嚴重ニ御吟味被成下置候様、私共よりも御願申上候由申

七分五厘ツ、

右之金子当卯之御年貢ニ差詰り申候付、儘ニ借用仕御年貢ニ上納  
申所実正也、此質物ニハ家屋敷并小家中畑三畝五分、見寄八畝所々  
舟橋、右書入申候、返済之儀ハ来辰三月晦日限急度元利共返済可  
申候、若相滞候ハ、加判之者より引払返済可仕候、為後日証文仍  
而如件

天保二年

卯十二月

小伊木村借主

林藏印

受人

平三郎印

組頭

惣七印

庄屋

大竹太左衛門印

坂井屋源兵衛殿

乍恐奉願上候御事

頃日私共之下濟取扱方蒙仰候小伊木村林藏元相懸り、古市場村源  
兵衛御訴訟奉申上候金談之一件、数度双方え立入申談候処、源兵  
衛儀濟口相談ニ加り呉不申迷惑仕候、源兵衛申聞候ニハ、林藏儀  
正法寺へ取替遣シ置候金子、右寺より返済旨にて出候金子他行之  
留主を附込參、家内之者へ正法寺より預ケ置候本紙証文偽り、証  
文差入引替候始末筋ニ而、過分之金子手ニ入同人立退候事ニ候故、  
同人立歸り之砌、右金子之遣ひ先等穿鑿也仕候処、林藏暮方不慥  
成何れニ欺右節之金子預ケ置候様子ニ見請候間、乍恐今一応右等  
之始末嚴重ニ御吟味被成下置候様、私共よりも御願申上候由申



聞候而、一切濟口成寄呉不申候、付而ハ源兵衛申聞候趣私共ニお  
りても無心しつこく元奉存候間、立退候節手ニ入候金子遣ひ先等明白ニ申  
聞候旨、段々林蔵取調申候処、金預置貯筋等有之旨ニ而ハ一切申  
不申、内輪之取調ニ而は治定難仕、左候得ハ下濟仰付方手間取迷  
惑至極仕候間、恐多御儀御座候得共、金子遣先等有体申上候様篤  
と御吟味被成下置候様仕度儀も無御座候而ハ、源兵衛承引致不申  
旨ニ御座候間、此段私共おゐても奉願上候、以上

鶴沼村

巳七月四日

取扱人 桜井長兵衛

同 山田安右衛門

水野篤助様

御陣屋

乍恐御達奉申上候御事

小伊木林蔵かみ懸り古市場村源兵衛御訴訟奉申上候金談出入一件  
ニ付、去二日双方共御呼出シ御調之上、御利解を以私共え下濟  
立入方被仰付奉畏、直様林蔵方取調申候処、全く不届之筋ニ付、  
右之含を以訴訟方源兵衛へ相渡り数度申談候処、源兵衛相談ニ  
加り呉不申迷惑仕候、依之段々欠合な之始末左ニ奉申上候

一源兵衛始メ喜内、平左衛門え向私共相渡り談候ニハ、此度之一  
条御願立られ候面、林蔵取計之始末相違無之義と候得は、林蔵  
始、外三人之者共ニ縮入候次第御座候、仍而何分追々承引ニ趣  
候筋合相談申度、併同人儀ハ此節有ニ甲斐なき身上ニ御座候間、  
勘考之上喜内、平左衛門よりも源兵衛ニ勘弁加へ相談シ致呉候  
様頼申候付、右喜内、平左衛門より右之旨差含呉候得共、源兵  
衛申聞候ニハ、林蔵取計之儀ニおゐてハ容易ならず、己レ自在

二人を偽り、先達帰村之砌対致候所、我わが俥ま手而巳申立不法  
至り、用捨難致次第ニ候故無余儀出訴仕候、下濟被仰付之趣奉  
畏候而御両人之御挨拶をも御請不申候而ハ恐多御儀候得共、今  
一応嚴重ニ御吟味被成下置候様私共よりも御願申上呉候様申聞  
候間、前ニ断候通其許訴訟面之趣相違無之旨、林蔵始之者共縮  
入候不実之次第ニ候得共、此上御吟味奉懸御苦勞候而も一言之  
申披もちひき無之、只管奉恐入候迄之事ニ而候、左候得ば金子請取方  
ニ付熟濟致呉候程之所、相談呉候様段々申含候得共、一円承引  
不仕候源兵衛申聞候ニハ、段々之御挨拶忝候得共、林蔵立退候  
節偽り筋等ニ而手ニ入候金子過分之事ニ候間、何方ニ欺預ケ候  
様子ニ見請候、人を偽り左様之取計致候者ゆへ、氣強く被思召  
候はかなれ共、乍恐格別之御訂ニ預り申度旨申立候而、何れニ  
も相談ニ加り呉不申候、右ニ付一昨四日書付を以今一応御吟味  
被成下候様御願奉申上候所、訴訟面ニ付林蔵一言之申披もちひきも  
無之次第ニ候得共、再度之御吟味ニは及不申、只弁金方模通而  
已立入熟濟可仕候様、嚴敷被仰付候儀御座候間、尚又双方え立  
入候始末左ニ奉申上候

一源兵衛差添喜内并平左衛門へ向私共より談候ハ、同人申立之通  
り書付を以再度之御吟味御願申上候処、御代官様より一条之始  
末双方相弁候儀ニ付而弁金方立入内熟いたし候得は、今又吟味  
致ニ不及候間、早速出金為致相片付候様被仰付候間、相談ニ及  
ひ候元金ノ拾四両壹分之内、半金七兩貳歩式朱当金ニ渡し、半  
金七兩貳歩式朱八年貳分ツ、来午年より拾ヶ年濟ニ而相濟呉  
候歟、又ハ当金拾兩限ニ而速ニ事濟致呉哉と、兩様を以私共之  
了簡を立申入候付、右兩人よりも右之旨ニ而数度欠合呉候得共、  
聊も了簡申出不申、当林蔵手前おゐても皆々金子相立事濟致